

江戸時代の下野の動植物

「下反町村他十二か村産物書上帳」

(本館寄託 篠崎昭家文書)

【釈文】

一のしし

一のしし

一もぐら

一もぐら

一かわうそ

一かわうそ

一うさぎ

一うさぎ

右取寄村不残相見へ

右取寄村不残相見へ

申候

一木ねづみ

一木ねづみ

右取寄村不残相見へ

臺新田村 江曾嶋村

右取寄村不残相見へ

蘆田村

魚類

一どぢやう

魚類

一小ざつこ

一どぢやう

一うなぎ

一小ざつこ

一すなむぐり

一うなぎ

一ふな

一すなむぐり

一きぎう

一ふな

一きぎう

一小魚び

一小魚び

右取寄村不残相見へ

右取寄村不残有之候

【大意】

- 一 いのしし
- 一 もぐら
- 一 かわうそ
- 一 うさぎ
- 一 右の動物は近くの村すべてで見ることができます
- 一 木ねずみ
- 一 臺(台)新田村、江曾嶋(島)村、靄(鶴)田村(これらの村で木ねずみを見ることができます)

魚類

- 一 どじょう
- 一 小ざっこ(小雑魚)
- 一 うなぎ
- 一 砂むぐり(スナモグリ)
- 一 ふな(鮒)
- 一 きぎょう(ギバチ、ギギ)
- 一 小えび
- 一 右の魚類は近くの村すべてで生息しています

【史料の説明】

本史料は享保二二年(一七三六)に作成された、下野国宇都宮藩領一三か村の産物書上帳です。一三か村とは下反町村、上御田村、中嶋(島)村、下横田村、御田長嶋(島)村、羽牛田村、臺(台)新田村、兵庫塚新田村、幕田村、鷺谷村、西川田村、江曾嶋(島)村、靄(鶴)田村をさします。史料には、穀類や野菜、魚、鳥などの様々な産物が書き上げられています。産物書上帳は、幕府から指示が出されて作成されたものであり、下野以外でも見ることができます。この指示は『庶物類纂』(注)の編集を理由として出されたと考えられています。

この書上帳に書かれた産物の多くは平仮名で記されており、小学生でも解読しやすい史料です。中には、方言で記された産物もあり、それを想像する楽しさもあります。また、史料に記された動植物から、その地域の過去と現在の自然環境を比較をすることができます。自分たちが

住む地域を調べる参考史料として、学校の授業でも様々な角度から使用することが出来ます。なお、授業の展開例については、『学校教材史料集』第一号に掲載しています。

(注) 本草学者稻生若水編。若水病没後、丹羽正伯などが増補し完成。中国文献に記載された動植物等の記事を書き抜いて、事項ごとにまとめて編集したものである。